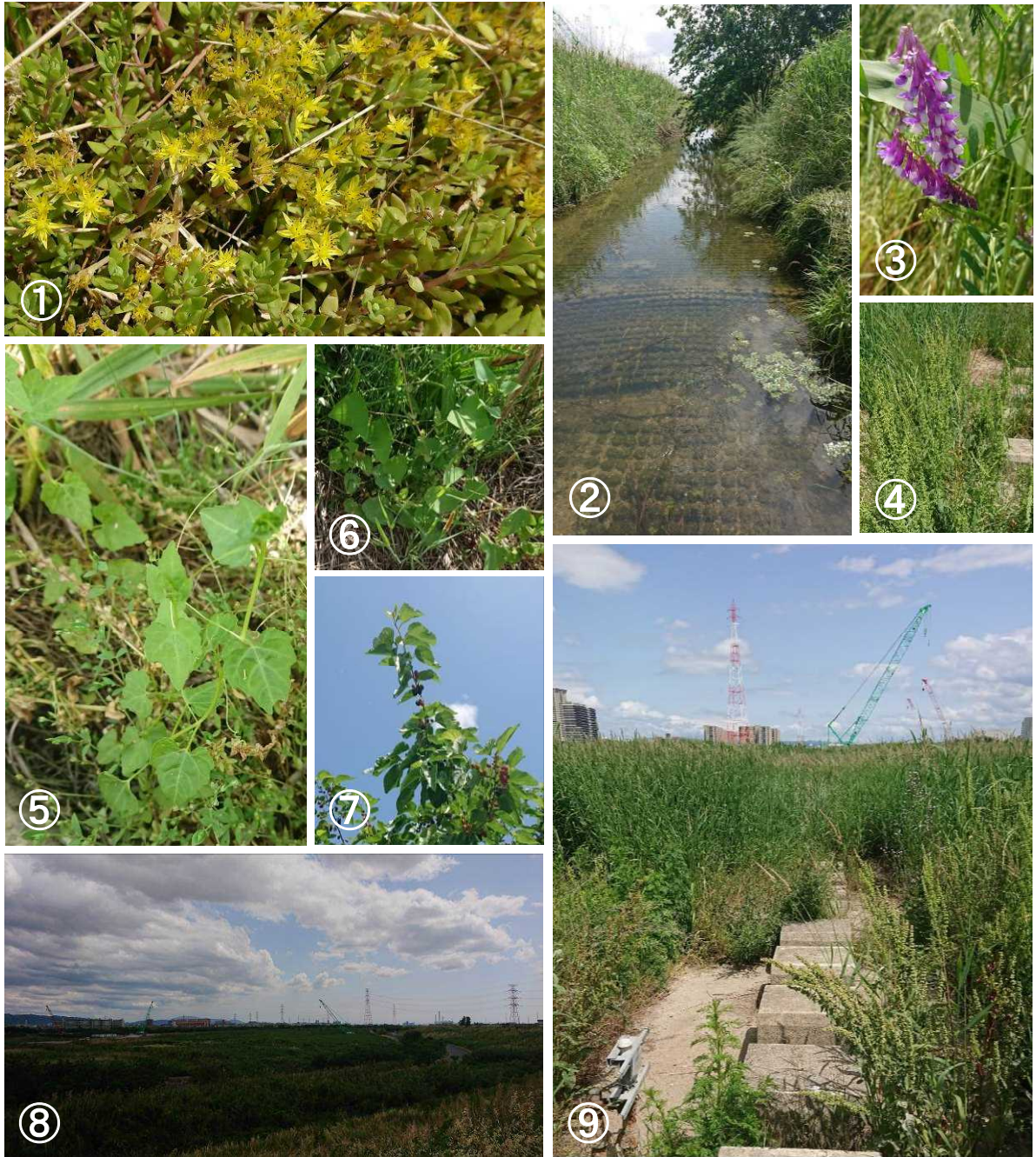


5月 モニターレポート		担当出張所	山崎出張所
担当区間	檜尾川合流点～大阪京都府境（阪急大山崎駅付近）（右岸28.2～35.4km）		
モニター実施日時	令和元年 5月24日（日） 時間帯：12:00～14:00		
天候	曇り		
（見出し）河川公園は引き続きお休み。			
<p>5月に入って、大阪の緊急事態宣言が解除されましたが、5月23日付の発表で、河川公園は引き続き閉鎖状態が続くとのことで、先月と人の構成や人数はあまり変わらないのかなあと感じていましたが、公園の近くには何人かの人の姿は見え、前回よりも若干人数が増えている様子。</p> <p>施設こそ利用していないものの、グラウンド横のベンチに腰掛けたり、新型コロナウイルスによる自粛前までの様子を取り戻しているかのように見えました。</p> <p>河川敷沿いの道ではロードバイクなどを走らせる方が何人もいて、気持ちよさそうにサイクリングを楽しんでいました。</p> <p>河川敷は日光を遮るものがなく、晴れた日にはこの時期でも汗だくになるほど暑くなりますので、熱中症にはくれぐれも気を付けて貰いたいです。</p> <p>河川敷の植物ですが、夏の植物が勢いを増してきました。</p> <p>クワの果実もたくさんできており、ハトがどこからともなくやってきて、地面に落ちたものをついばんでいます。</p> <p>雑草のギンギシにも果実がたくさんできていたり、ツルマンネングサが開花したり、季節の移ろいを感じます。湿った場所に育ちやすいイシミカワも、少し開けた場所に生えていました。海外ではうっとうしがられる存在のイシミカワですが、日本の生態系の中ではそこまでの存在感はありません。三角形の特徴的な葉が風に揺れていました。</p> <p>河川敷を歩く中で、外来植物のナヨクサフジを見かけました。綺麗な花を咲かせていましたが、個人的にクサフジの方が見かけることが多いイメージでしたので、少し驚いていました。</p> <p>河川敷の土壌にはどのような種子が入っているのでしょうか。</p> <p>どこから持ってきた土なのか、それとも元からあった土なのか。</p> <p>工事による土砂の移動に伴って、外部から種子が入り込んできて生態系を壊すことはよくあることなので、元の自然を維持させることを考えると、同じ場所の土を用いて工事するのが良いのかもしれませんが、コストや色々な面も考えると、難しいのかもしれない。</p> <p>鵜殿付近の工事によって（？）水の流れ込まなくなったゴキヅルの生えていた場所へ、春先に続いて行ってみたところ、かろうじて数個体が生育していました。</p> <p>しかし以前見た時とは、かなり小さな個体ばかり。他の陸生の植物に圧倒されている様子です。</p> <p>この辺りの水の流入については、鵜殿ヨシ原研究所が色々と考えていたと思っていたのですが、今はどうなんでしょうか…。</p> <p>全国的に数を減らし続けている水田雑草の一つであるゴキヅル。</p> <p>生態系および肥沃な土壌がある程度守られている鵜殿でもこのような状態ですので、淀川沿岸から消えるのは時間の問題かなあと感じていました。</p> <p>・・・ちなみに同じウリ科のアレチウリはどんどん勢力を拡大させていました。</p> <p>何とかしたいですが、法律的に個人が勝手に引き抜いたりできないので歯痒いです。</p>			



①ツルマンネングサ ②水路とヒシ ③ナヨクサフジ ④ギンギシ ⑤ゴキヅル ⑥イシミカワ ⑦クワ
⑧工事中の鶴殿付近の河川敷 ⑨水が流れ込まなくなった水路跡

(意見・感想・処置等)

5月のモニターレポートありがとうございます。緊急事態宣言が解除され、公園利用者が徐々に増え賑やかになってきました。河川敷では緑が広がり、夏らしくなってきましたね。自然豊かな河川敷で心も体もリフレッシュしていただきたいです。

河川敷の土壌に関して、工事で使用する土に、どのような種子が入っているかまでは調査しておりません。工事で使われる土には、いろいろなパターンがあります。

例えば、堤防強化（緩傾斜化）などで、現状の上に大量の土が必要な場合は、淀川管内の別の場所（河川敷）

の土を使うこともあれば、購入した山土を使用することもあります。また、高水敷整正などの場合は、淀川に元からあった土を使うことがほとんどで、場合によっては、淀川管内の別の場所から持ってきた土を使うこともあります。

その他には、鵜殿切下げ工事の場合は、環境委員の先生方に事前に相談して実施されおり、鵜殿にもともとあったヨシ原の、ヨシの根を含んだ土を覆土として使用しています。

鵜殿のヨシ原には、トネハナヤスリ、ノウルシ、タコノアシ、ミコシガヤなどの希少種が生息しております。外来種であるアレチウリの繁茂は、在来植物に悪影響を及ぼすことがあるので心配ですよね。ヨシ原の維持や希少種を保全するためにも、ヨシ原への関心度の向上と、行政と地域による協働による管理が必要なのかもしれません。

では、来月のレポートも宜しくお願いします。